

厚生労働科学研究
(子ども家庭総合研究事業)

乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための
母子健康手帳の活用に関する研究

平成14年度研究報告書

平成15年3月

主任研究者 小林正子

目 次

I 総括研究報告.....	5
乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用 に関する研究	
小 林 正 子	
II 分担研究報告	
1. 母子健康手帳のさらなる活用に関する研究.....	9
小 林 正 子	
資料	
① 新たな母子健康手帳活用の方向性として：小牧市の実践例より.....	74
小 林 正 子	
② 小・中・高校における健康管理の実態と今後の課題.....	76
齋 藤 久 美	
村 木 久 美 江	
土 屋 芳 子	
星 井 道 代	
2. 学校における「健康手帳」に関するアンケート調査.....	84
矢野 亨, 近藤 太郎	
3. Microsoft Excel を用いた身体計測値のプロット方法に関する一案.....	134
加 藤 則 子	

乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための 母子健康手帳の活用に関する研究

主任研究者 小林 正子（国立保健医療科学院 生涯保健部 行動科学室長）

研究要旨

本研究は、母子健康手帳と学校健康手帳について今後の望ましい活用法を検討することで、子どもの一貫した健康管理や生涯にわたる主体的な健康づくりに貢献することを目的としている。平成14年度は、母子健康手帳と学校健康手帳の活用実態の調査を行うと共に、保護者、児童生徒、養護教諭等の考えを収集し、どのような手帳が求められているのか検討した。さらに、専門家による委員会を設置して検討を行った。その結果、母子健康手帳は保護者が大切に保管しており、予防接種歴などは就学後も必要になったとして、子どもが成人するまで一貫した記録が残せる手帳を希望していた。愛知県小牧市では既に中学時代まで記録できる母子健康手帳が使われ、子育てにも活用されていた。一方、学校健康手帳は、小・中学校では80%以上の学校で手帳あるいはカードが使われているものの高校では35%程度と少なく、健康の記録が次第に家庭に返還されなくなっている状況がみられた。また、健康手帳は学校によって様式が異なり、活用状況にも大きな違いがみられた。さらに、健康手帳は単に身体計測値や発達状況、予防接種、病気などの記録ばかりでなく、母子健康手帳においては子どもの発育発達段階に沿った心身の健康に関する情報を、学校健康手帳においては子ども自身が身につけるべき健康情報等を盛り込み、自由に記載できるスペースも設けることなどが要望として挙げられており、子育て支援や子どもの健康づくりに役立つような内容とすることが求められていた。また、発育や予防接種歴などは、母子健康手帳と学校健康手帳という2つの健康手帳によって保護者と子どもの双方が記録を共有する必要性も示唆されたことから、今後、記載期間を延長し、どちらの手帳も出生から成人までの記録が残せるようにする方向で検討する。また、身体発育値を健康情報として活用する方法も検討され、簡単にグラフに表すソフトの必要性も示された。これらは重要な個人情報を含んでいるため、今後の活用法については個人情報の保護という観点からも検討する必要がある。

分担研究者

矢野 亨：財団法人日本学校保健会 会長

加藤則子：国立保健医療科学院

生涯保健部 母子保健室長

A. 研究目的

子どもの発育発達や予防接種歴、健康状態を記録する手帳は、就学時を境に母子健康手帳と学校健康手帳（あるいは健康カード）に分かれているのが現状であるが、本研究は、これらの健康手帳を見直し、今後の望ましい活用法を検討すること

で、子どもの一貫した健康管理や生涯にわたる主体的な健康づくりに貢献することを目的とした。また同時に、健康手帳を検討していく過程において、地域保健と学校保健の連携が強化されることも意図しており、「健やか親子21」の一助となることが期待できる。

B. 研究方法

母子健康手帳とそれに関連した学校健康手帳については小林班が「健康手帳研究会」を設けて検討し、学校健康手帳については矢野班が「学校健康手帳活用調査委員会」を設けて検討を行った。また、乳幼児の身体計測値の活用については加藤が担当した。具体的な内容を以下に示す。

1. アンケート調査

- ①母子健康手帳と学校健康手帳の使用状況および健康手帳に関する保護者、児童生徒の意見収集を目的として平成14年12月～平成15年2月実施

対象

- ・茨城県1町の小学5・6年生、中学生、高校生。および小中高生の保護者
- ・大阪府各地の小学5・6年生、中学生、高校生

- ②学校健康手帳に関する全国の使用実態の把握と養護教諭の意見収集を目的として平成15年1月～2月実施

対象

- ・全国小中高の養護教諭

2. 健康手帳の収集と活用実態調査

- ①学校独自の健康手帳の有無について、全国市町村教育委員会3200箇所を通して調査
- ②愛知県小牧市の母子健康手帳について、作成の目的や過程、その効果を聞き取り調査

3. 乳幼児の身体発育値を育児支援に役立てる方法について、基準曲線上にグラフを描くことから検討

【倫理面への配慮】

アンケート実施に際しては教育委員会等を通じて許可を取り、無記名で行い、結果を研究以外に使用しないことを明記した。また、身体計測値などの個人情報の取扱いについては、プライバシーの保護に十分配慮した。

C. 研究結果

1. アンケート調査

茨城県では1町を対象に、小学校10校（577名）、中学校3校（902名）、高校2校（586名）の計2065名から回答を得た。また、これらの小中高の児童生徒の保護者827名から回答が封書で返信された。

大阪府では小学校3校（670名）、中学校3校（812名）、高校3校（349名）の計1831名から回答が得られた。

養護教諭に対する全国調査では、アンケートを送った2254校（小学校1080校、中学校1080校、高等学校94校）のうち回答が得られたのは計1221校（小学校626校、中学校537校、高等学校58校）で全体の回収率は54.2%であった。

アンケート調査の概要

・母子健康手帳の保管状況

保管 98.8% 紛失その他 1.1%

・母子健康手帳は子育てに役に立ったか

とても 36.4% 少し 45.7%

全く役に立たなかった 0.2%

・子どもが学校に入学後も母子健康手帳が必要になったことがあるか（はい95.5%）

→予防接種の記録 88.5%、発育発達 34.3%

・子どもの発育発達・健康情報を出生から一貫して記載できる手帳

あった方がよい 85.6%

なくてもよい 4.6%

・母子健康手帳は将来

自分が持っていたい 37.5%

どうするかわからない 26.0%

子どもが成人したらあげる 23.0%

- ・母子健康手帳を子どもの就学後も使えるようにすることについて

期間延長は賛成53.3%、しかし保管は保護者（子どもに持たせると紛失が心配）

- ・児童生徒（母子健康手帳に興味あるが）自分の健康手帳を持ちたいか

持ちたい：小学生 51.1% 中学生 31.6%
高校生 23.5%

どちらでも：小学生 39.5% 中学生 56.7%
高校生 59.3%

いない：小学生 1.5% 中学生 4.0%
高校生 4.0%

- ・学校健康手帳（あるいはカード）の使用状況

小・中学校では8割以上の学校で使われているが、高校になると使用が減少（35%）

- ・学校健康手帳の形式

保護者：1冊にまとめた

児童生徒：小さくて軽いもの B6サイズ
（分冊して後でまとめられるように）

養護教諭：一体型、分冊型と意見が分かれる
サイズはA5の希望が多い

- ・学校健康手帳の内容（児童生徒）

記録として必要 → 身長・体重、肥満や痩せ、
体力テスト、健康診断、けがや病気
知りたい健康情報 → 身長・体重、罹りやす
い病気、ストレス、運動の仕方、
事故防止や応急手当、肥満や痩せ

- ・学校健康手帳の使用目的と注意すべきこと

（養護教諭）

主な目的は「保護者や生徒に健康状態を知らせる」「家庭内で健康を意識するきっかけとなるように」で、「学習に使用する」は少ない

記入者は児童生徒中心（低学年は保護者と共に）

プライバシーに注意が必要

養護教諭の事務量が多くなるよう他の他の記録用紙と統合を

2. 健康手帳の収集と活用実態調査

①学校独自の健康手帳の有無

全国2537箇所からの回答で、学校独自の健康手帳がつくられているのは9%だった。

②愛知県小牧市の母子健康手帳

保健師、保育士、養護教諭の連携で平成9年に子どもが中学卒業まで記載可能な母子健康手帳が作られ、子育て支援に有効な役割を果たしている。

3. 乳幼児の身体発育値を育児支援に役立てる方法について、基準曲線上にグラフを描くことから検討

乳幼児健診時に測定される身長・体重や子育て支援センターで保管している身体発育値を健康情報として有効に使う方法を検討するため、パソコン上でエクセルを用いて厚生労働省の乳幼児身体発育パーセンタイル曲線上に乳児の継続的な体重計測値をプロットする方法の開発を試みた。現時点では、研究者の段階で可能となっているが、まだ手間がかかり簡単とはいえない。

D. 考察

母子健康手帳は99%の保護者がきちんと保管しており、7割以上が子育てに役立ったとみなし、役立たなかったとの答えは0.2%で、子どもの就学後も予防接種歴や発育記録などを確認する必要があったとの回答が多く、よく活用されている実態が明らかになった。そして、子どもの発育や健康状態が出生から成人まで記録できるような手帳を望む声が多くきかれた。しかし、母子健康手帳の使用期間の延長については多くの親が賛成しているが、学校健康手帳に直接つなぐことには抵抗がみられ、新たな健康手帳の作成を試みる際、プライバシーには十分配慮する必要があると考えられる。さらに、子ども自身の健康手帳についても、自分のものだからなくさないようにするとの自覚がみられるが、実際紛失したときにどうするかなどの問題があり、今後個人情報の保護については検討を深める必要がある。

しかし、子どもの発育記録や健康状態を出生から成人まで一貫して記載できる母子健康手帳の必

要性は高く、児童生徒も健康情報を盛り込んだ学校健康手帳を希望しており、とくに小学生において関心の高い状況がみられたことから、今後は母子健康手帳と学校健康手帳の双方について、互いの役割りと関連を考慮しながら、内容や活用法などを具体的に検討していくという方向性が示された。

さらに学校健康手帳に関しては、小学校から中学校、中学校から高校へ進む段階で健診の記録が適切に引き継がれていない実状が明らかになり、今後の学校健康手帳の果たす役割が期待される。また、手帳の保管方法や形態についても検討する必要があり、大きさについても、児童生徒は小さめのB6を希望しているのに対して養護教諭はA5が良いとする意見が多いなど違いがみられる。

また、独自の健康手帳が作られている学校は少数だが、既に使用されているところでの実状を把握することも必要と考えられる。

保管や記入については、保管は児童生徒あるいは家庭が責任を持ち、記入も児童生徒本人が行うべきとする養護教諭が多数であったが、これらは

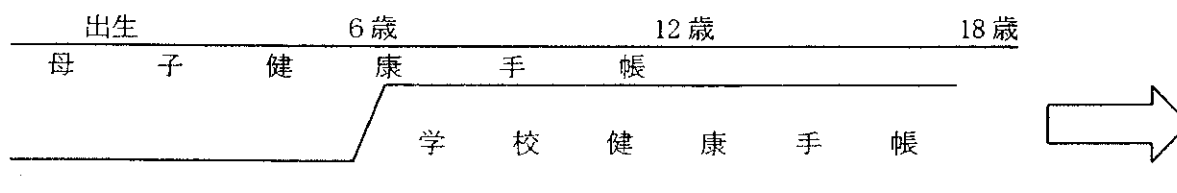
養護教諭の事務量を増やさないと個人情報保護の両面から、今後検討すべき課題である。

また、発育基準曲線上に小児の身体計測値をプロットすることは、発育評価にとって重要なプロセスであるから、現場でより簡便に使えるソフトを開発する必要がある。

E. 結論

現在、母子健康手帳と学校健康手帳は就学時境界に分断された状態にあるが、子どもは一貫した存在であり、保護者と子どもの双方が発育発達の経過や予防接種歴、健康診断の結果等を出生時から把握していることが望ましい。そのためには、母子健康手帳と学校健康手帳の双方について、記載可能な期間の見直しを含め、時代に即した健康手帳を作成する必要がある。今後は具体的に健康手帳の内容を検討していくが、この過程において地域保健と学校保健の連携が強化され、子どもを巡るさまざまな課題の検討が進められるよう配慮したい。

母子健康手帳と学校健康手帳の構想



厚生労働科学補助金(子ども家庭総合研究事業)

「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究」

分担研究報告書(小林班)

母子健康手帳のさらなる活用に関する研究

小林 正子 (国立保健医療科学院・生涯保健部・行動科学室長)

研究協力者： 高石 昌弘 (国立公衆衛生院顧問)
日 暮 眞 (東京家政大学教授)
大西 鍾壽 (高松短期大学教授)
三木とみ子 (女子栄養大学教授)
衛藤 隆 (東京大学大学院教育学研究科教授)
中村 安秀 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
齋藤 久美 (さいたま市立桜木小学校養護教諭)
土屋 芳子 (都立国分寺高等学校養護教諭)
星井 道代 (都立松原高等学校養護教諭)
村木久美江 (川口市立戸塚中学校養護教諭)

研究要旨： 母子健康手帳はわが国で50年以上も使用され、内容も時代と共に改訂されて活用が進んでいるが、この母子健康手帳を保護者への子育て支援や子どもの健康管理・健康づくりにさらに役立つものとするために、学校健康手帳との係わりも含めて使用状況の調査を行い、保護者・児童生徒から意見を収集し検討した。その結果、母子健康手帳はよく保管され、子育てにも役立ち、就学後も必要性が高く、活用が進んでいる実態が把握されたが、さらなる活用を望む声が多かった。とくに子どもの健康情報は一貫して記録する必要があるとして、6歳までの使用に限られている現在の母子健康手帳を延長し、学童期に入っても継続して記録が残せるようにすべきとの意見が多数を占めた。しかし、子どもの学校健康手帳に直接繋ぐことには個人情報保護という観点からも相応しくないことから、母子健康手帳は少なくとも子どもが成人するまでは保護者が管理して記録するという方向性が示された。児童生徒の調査では、母子健康手帳は女子において関心が高く、将来、親から受け継ぐことを期待しているが、一方で男女とも自分の健康手帳を持ちたいとの希望があり、とくに小学生で関心が高かった。さらに、学校健康手帳には健康情報が盛り込まれることを望んでいた。今回の調査から、保護者・児童生徒とも健康手帳に対しては内容のみならず表紙や手帳のサイズについても様々な要望のあることが判明したため、今後はこれらを参考に活用方法についても検討し、役立つ健康手帳の作成を目指す。母子健康手帳と学校健康手帳は切り離して考えるのではなく、どちらも有効活用されるよう併せて検討していく必要がある。

A. 研究目的

わが国で 50 年以上も使用されている母子健康手帳と学校で使われている健康手帳(カード)が子育てや子どもの健康管理・健康づくりに有効活用されることを目指し、保護者や児童生徒に対して使用状況の把握と意見の収集を行い、母子健康手帳ならびに学校健康手帳について今後のあり方を検討する。

B. 対象と方法

対象は小学校5年生から高校生までの児童生徒およびその保護者とした。地域は、茨城県農村部および大阪府(各地)を設定し、調査協力校の養護教諭・担任などに対して、ホームルームでの配布・回収を依頼した。実施時期は平成 14 年 12 月から平成 15 年 2 月の間である。

茨城県では1町を対象に、小学校 10 校(577 名)、中学校3校(902 名)、高校2校(586 名)、合計児童生徒数 2065 名に対してアンケート調査を行った。また、保護者については、これらの小中高の児童生徒に返信用封筒付き調査用紙を持ち帰ってもらい、親の視点からの母子健康手帳の活用についてアンケート調査を行った。そのうち、827 名の保護者から回答が得られた。

大阪府では小学校3校(670 名)、中学校3校(812 名)、高校3校(349 名)について、同様のアンケート調査を行った。

質問項目では、小中高生に対しては母子健康手帳の認知度や中を見た時の興味、学校での健康管理の方法や健康について知りたい情報などについて質問を行った。

また保護者に対しては今までの子育てでの母子健康手帳の活用経験や、望まれる健康手帳のあり方などについて質問を行った。

集計はアンケート集計用ソフトを使用し、単純集計とクロス集計を行い、自由記述については全体を通して傾向を把握し、分類を行った。クロス集計に際しては、記載のない「不明」を除いてある。

アンケート用紙を次ページ以降に掲載した。

児童生徒用は、【「健康手帳」に関するアンケート】として小学生から高校生まで同一の内容としたが、小学校5・6年生には難しい漢字をひらがなに直した用紙で実施した(小学生用のアンケート用紙は掲載省略)。

6-1 (あったほうがいい場合) それはどうしてですか? (いくつでも〇)

1. 自分の身長や体重の増加の様子がわかる
2. 太りすぎたり、やせすぎたりしないように気をつけることができる
3. 自分の健康状態がわかる
4. いつ、どんな病気にかかったかがわかる
5. いつ、どんな予防接種を受けたかがわかる
6. 大人になってから健康に役立つ
7. 自分が親になったときの参考になる
8. その他 ()

7 健康手帳ができた場合、自分で書き込んだり、なくさないよう大切に持つことになりませんが、そのことをどう思いますか?

1. 自分のものだから当然だ
2. できるだけ努力したい
3. めんどうなのていやだ
4. 持ってみないとわからない

8 手帳の内容として、あったら活用すると思うものはどれですか? (いくつでも〇)

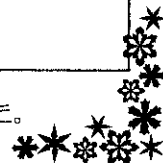
1. 身長や体重など、からだの発育記録やグラフ
2. 自分が太っているかやせているかなどがわかるグラフ
3. 血圧測定
4. 尿検査
5. 予防接種の記録
6. 健康診断の結果
7. けがや病気の記録
8. 体力テストの結果
9. スポーツ競技の記録
10. 生活習慣のチェック
11. からだや健康に関する情報
12. その他 ()

9 一般にからだや健康について、知りたい情報には、どんなことがありますか?

1. 身長や体重について
2. 肥満ややせについて
3. かかりやすい病気について
4. 伝染病について
5. 生活習慣病について
6. 性感染症・HIVについて
7. インフルエンザについて
8. 食中毒の予防について
9. 遺伝や遺伝子について
10. ストレスについて
11. アレルギーについて
12. からだの仕組みについて
13. 事故防止や応急手当について
14. 運動のしかたについて
15. 薬物乱用について
16. その他 ()

10 「健康手帳」についてご意見がありましたら、なんでも自由に書いてください。

これで終わりです。ありがとうございました。



「健康手帳」に関するアンケート(保護者用)

保護者の皆様へ

このたび、お子さんが自分のからだの発育や健康状態、運動歴などを記録して、将来的にも健康管理に役立つような「学校健康手帳」の作成について検討することになりました。そこで皆様方のご意見をお伺いしたいと思います。

お忙しいなか大変恐縮ですが、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。
なお、この調査は無記名で行い、研究目的以外に使用することは全くございません。
また、アンケートに対するご質問などがございましたら下記までご連絡ください。

厚生労働省 国立保健医療科学院

生涯保健部 行動科学室長 小林正子

〈平成14年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)
「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための
母子健康手帳の活用に関する研究」主任研究者〉

Tel. 048-458-6111 内線2653 fax. 048-469-3716 e-mail : mk@niph.go.jp

次の質問に対し、あてはまる項目に○をつけて下さい。また、ところにより自由にご記入ください。

■まず最初に、入学前まで保護者が使用していた母子健康手帳についてお尋ねします。

1 母子健康手帳は現在も保管していますか？

1. はい 2. いいえ

2 お子さんが学校に入る前、病院などに連れて行くときに母子健康手帳を持っていききましたか

1. いつも持っていった 2. ときどき持っていった
3. ほとんど持っていかなかった 4. 全く持っていかなかった

3 子育てにおいて、母子健康手帳は役立ちましたか？

1. とても役に立った 2. 少し役に立った
3. どちらともいえない 4. あまり役に立たなかった
5. 全く役に立たなかった

4 お子さんが学校に入られた後、母子健康手帳の記録が必要になったことはありますか？

1. はい → 4-1 それはどんな項目ですか

1. 妊娠の記録
2. 出産の記録
3. 新生児の記録
4. 乳幼児健診の記録
5. 歯科の記録
6. 予防接種の記録
7. その他 ()

2. いいえ

5 母子健康手帳は、お子さんが海外留学するときなどの予防接種証明書を作成するときに記録を確認するために必要になる場合があるのをご存じでしたか？

1. 知っていた 2. 知らなかった

6 将来、母子健康手帳をお子さんにあげようと思いますか？

1. 中学生になったらあげようと思う
2. 高校生になったらあげようと思う
3. 成人したらあげようと思う
4. 自分が持っていようと思う
5. どうするかわからない
6. その他 ()

■次に、「学校健康手帳(仮称)」についてお尋ねします。

7 現在、お子さんは「健康手帳」あるいは「健康カード」を持っていますか？

1. 持っている
2. 持っていない
3. わからない

8 小学校から中学校、高校(あるいはその先)にかけて、成長過程がわかるような記録や予防接種歴、健康診断の結果などをまとめて記入できる手帳があったほうが良いと思いますか？

1. あった方がよいと思う
2. なくてもよい
3. わからない
4. その他 ()

9 学校健康手帳は、学校に入ってから記録だけでなく、母子健康手帳をそのまま延長して学校でも使える手帳にする、ということについてはどう思いますか？

1. 賛成
2. 反対
3. 完全に賛成でも反対でもないが少し気になる点がある。
→どのような点が気になるのか、よろしければお聞かせください
()
4. わからない
5. その他()

10 上記のように母子健康手帳を学校まで延長して使えるものにする場合、妊娠中の母親の記録などを切り離して、子どもの記録だけを載せた手帳にするとしたらどうですか？

1. 親の記録がないなら賛成
2. 親の記録がないのは反対
3. いずれにせよ賛成
4. いずれにせよ反対
5. わからない
6. その他 ()

11 あなたご自身とお子さんについておたずねします。

- ・あなたは 1. 男性 2. 女性
- ・お子さんの数は () 人
- ・このアンケート用紙を持ってこられたお子さんは
- 1. 小学校()年生 2. 中学校()年生 3. 高校()年生

12 学校で使う「健康手帳」について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

以上です。ご協力、有り難うございました。

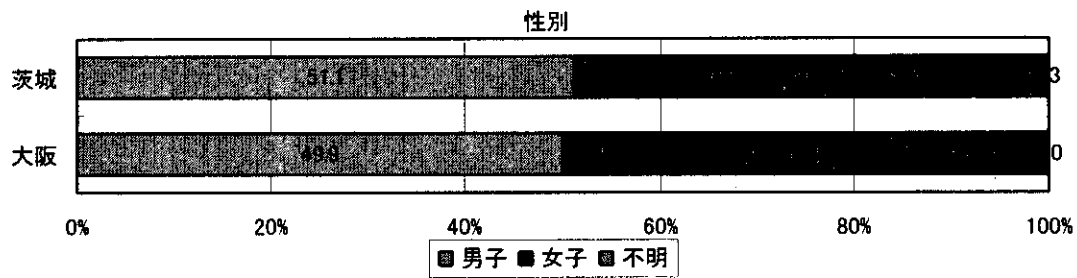
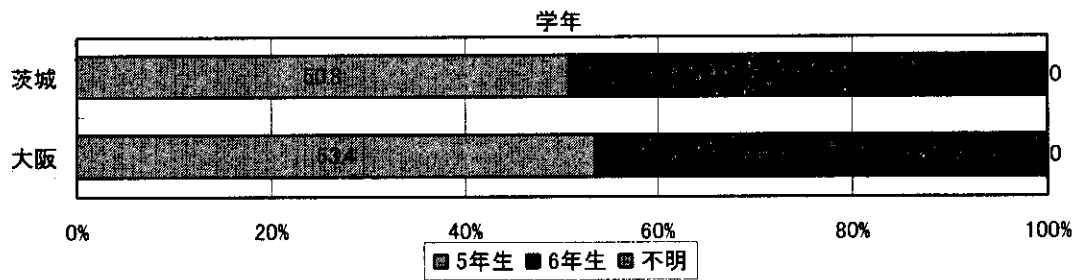
C. 研究結果

アンケート調査の結果は、小学校、中学校、高等学校、保護者別に示し、文中では、茨城県 1 町を茨城地域、大阪府を大阪地域と表記した。

小学校対象調査

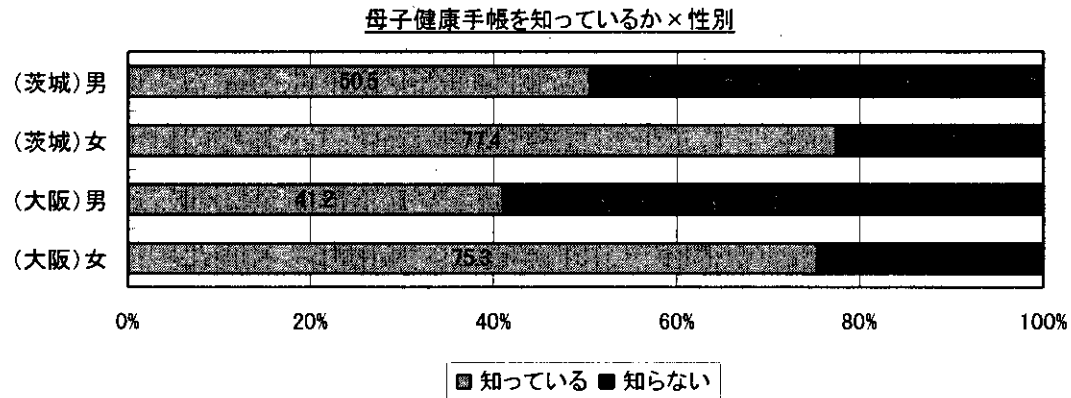
学年・性別

調査対象の基本属性は以下のとおりである。



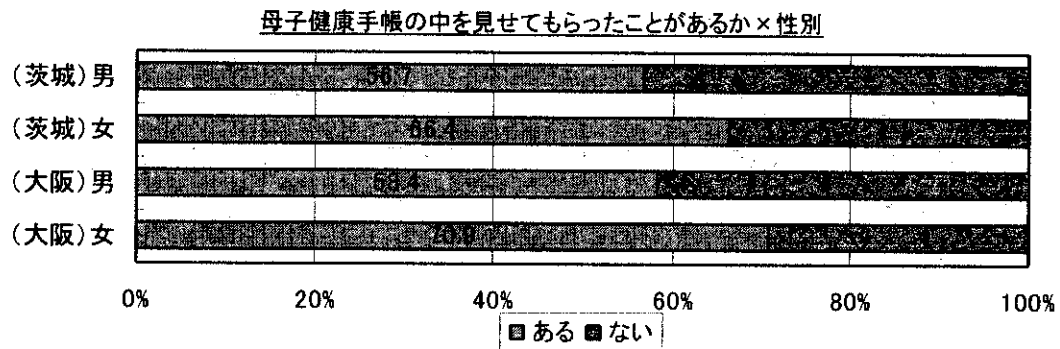
母子健康手帳を知っているか

母子健康手帳を知っているか質問したところ、地域による大きな差は見られないが、女子の方が男子に比べて知っている割合が 20～30%多い。



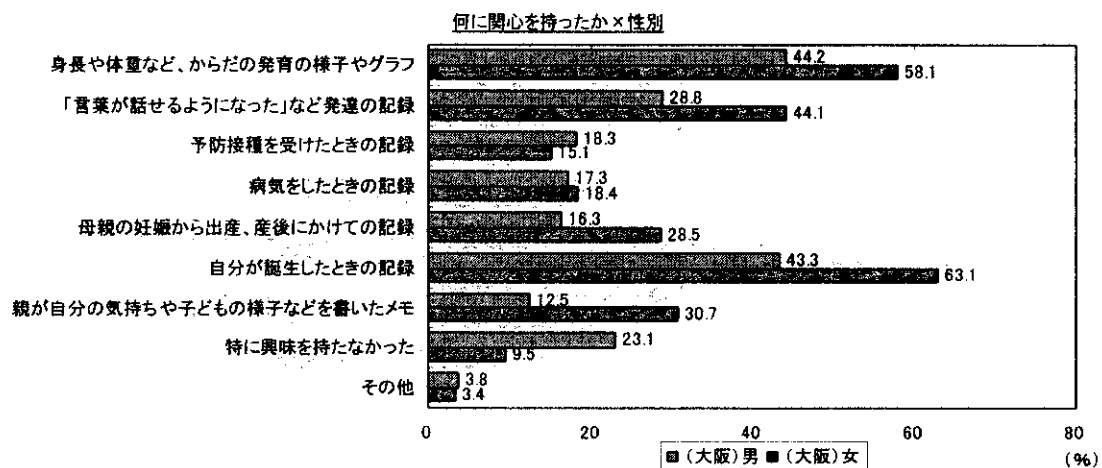
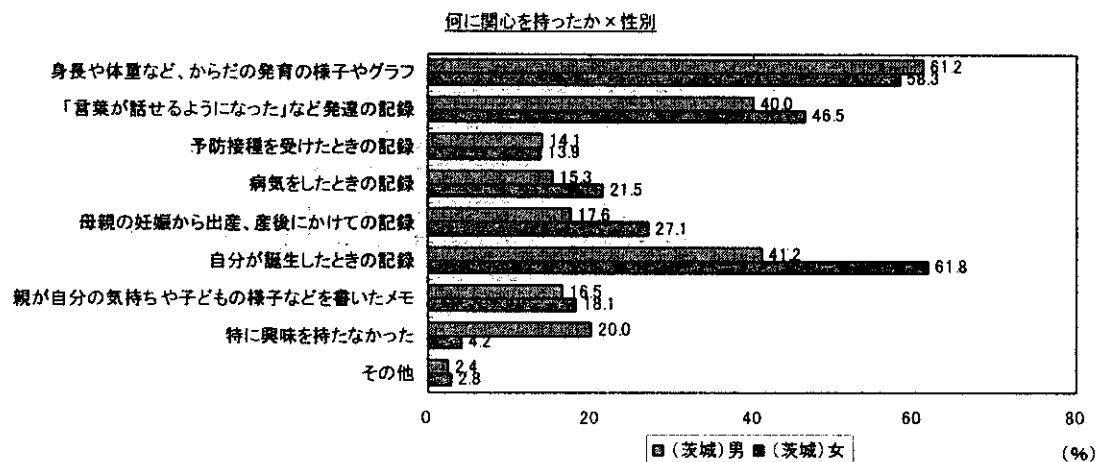
母子健康手帳の中を見せてもらったことがあるか.....

母子健康手帳の中身を見たことがあるか質問したところ、女子の方が男子に比べ見たことがある児童が多かった。



何に関心を持ったか.....

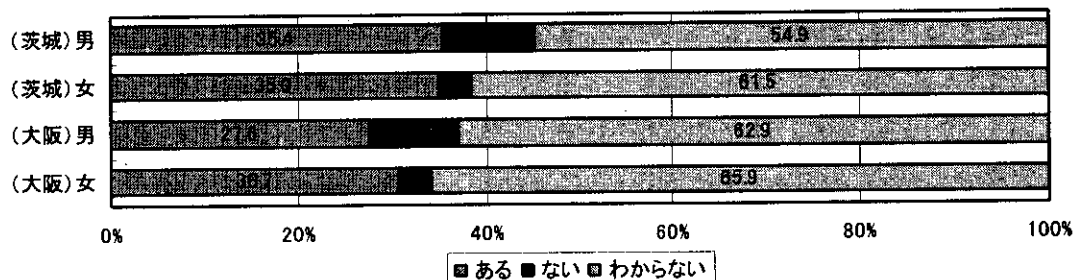
また関心を持ったことでは、女子が「誕生した時の記録」が両地域とも男子に比べてかなり高い割合を示した。逆に男子は「特に興味を持たなかった」割合が女子に比べ高く、性別による差が見られる。



中の記録について役に立つものがあったか.....

中の記録について役に立つものがあるかという質問に対し、茨城地域のほうが若干「役に立つ」と考えていた。また男子は「役に立つものはない」と考えている児童が両地域とも1割程度いる。

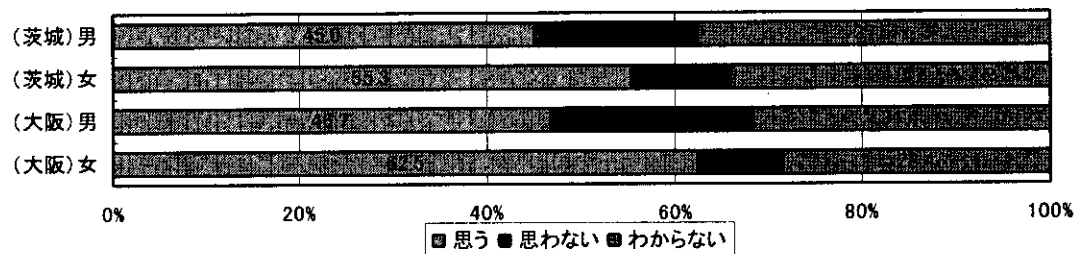
中の記録について役に立つものがあるか×性別



成長したら母子健康手帳を親からもらいたい.....

地域差はさほどみられなかったが、女子の方が男子よりも「もらいたい」と思う割合が強い。

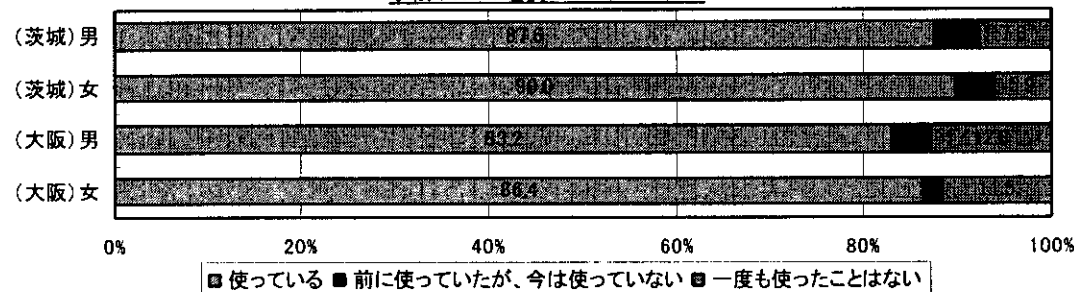
母子健康手帳を親から貰いたい×性別



健診結果などを記入する手帳やカードを使用している.....

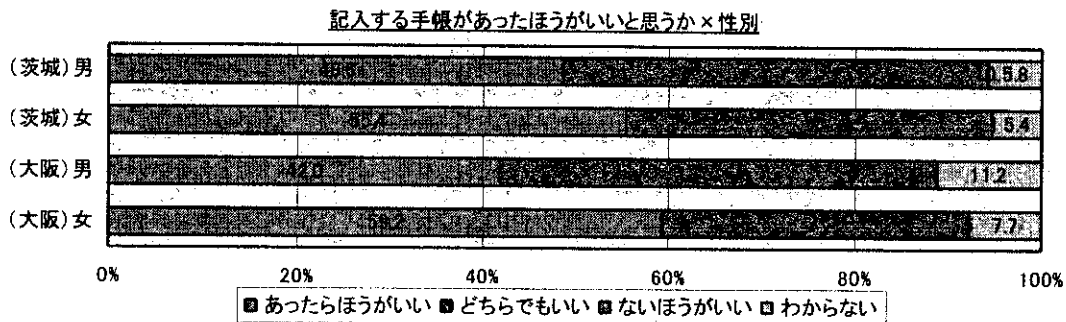
健診結果などを記入する手帳の必要性について質問したところ、有効回答のうち8～9割の生徒が必要と考えていることが分かった。

手帳やカードを使っているか×性別



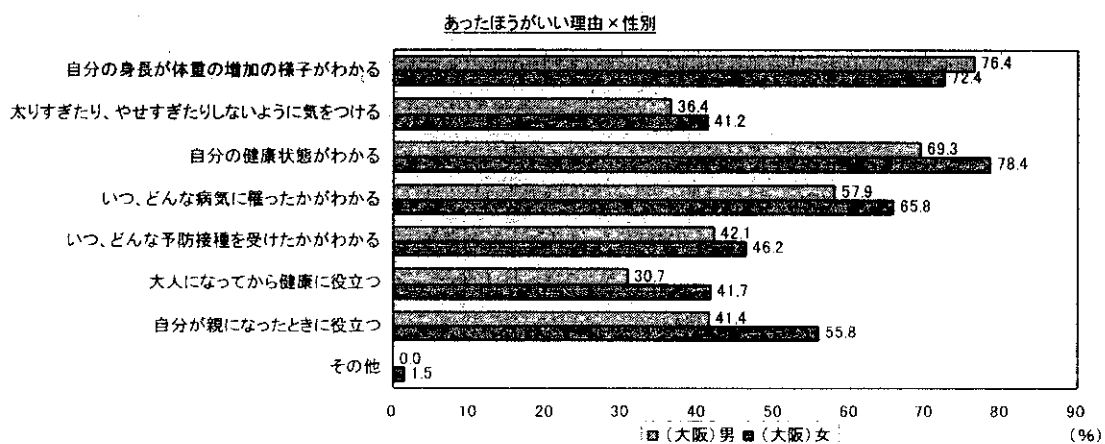
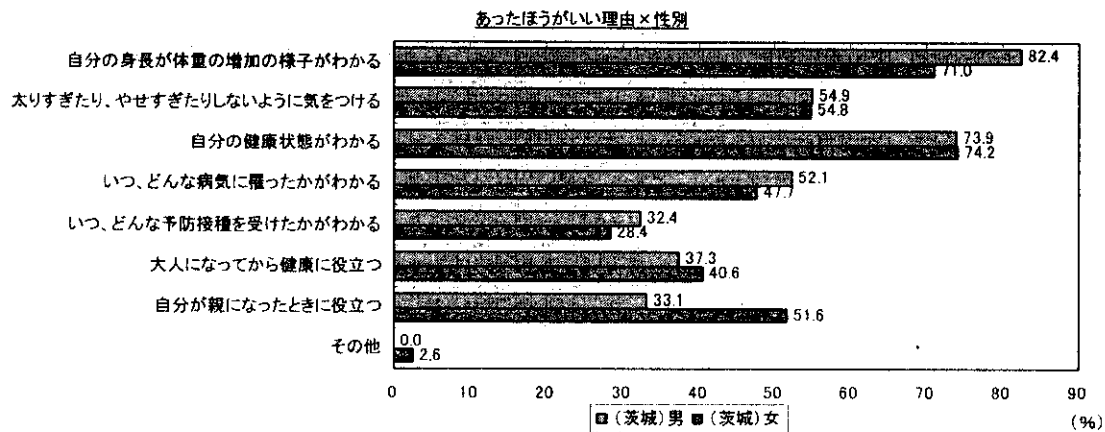
記入できる手帳があったほうが良いと思うか.....

手帳があったほうが良いと思うかという質問に対して、地域差はほとんど見られなかったが、男女間では、女子の方が「あったほうが良い」と回答している。



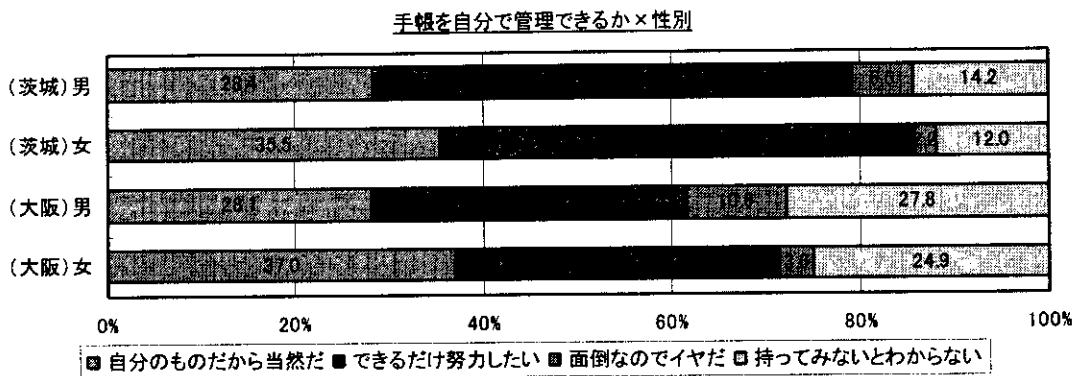
手帳があったほうが良い理由.....

あったほうが良い理由としては、地域間では茨城地域が「太りすぎ・痩せすぎ」の項目が多いのに対して、大阪地域では「予防接種」や「大人になってから」が比較する互いの地域に比べて高い。また性別による差では、特に女子が「自分が親になった時に役立つ」が男子に比べて高い。



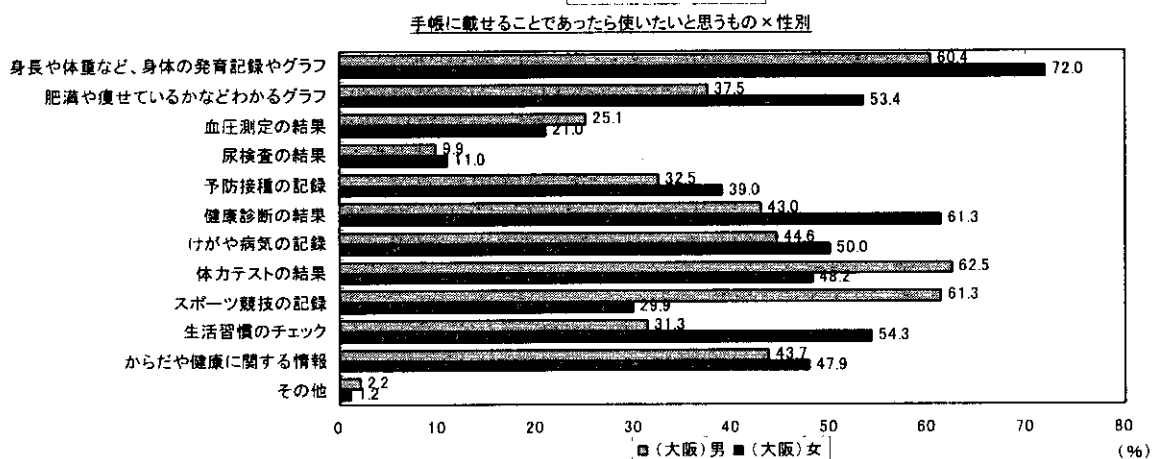
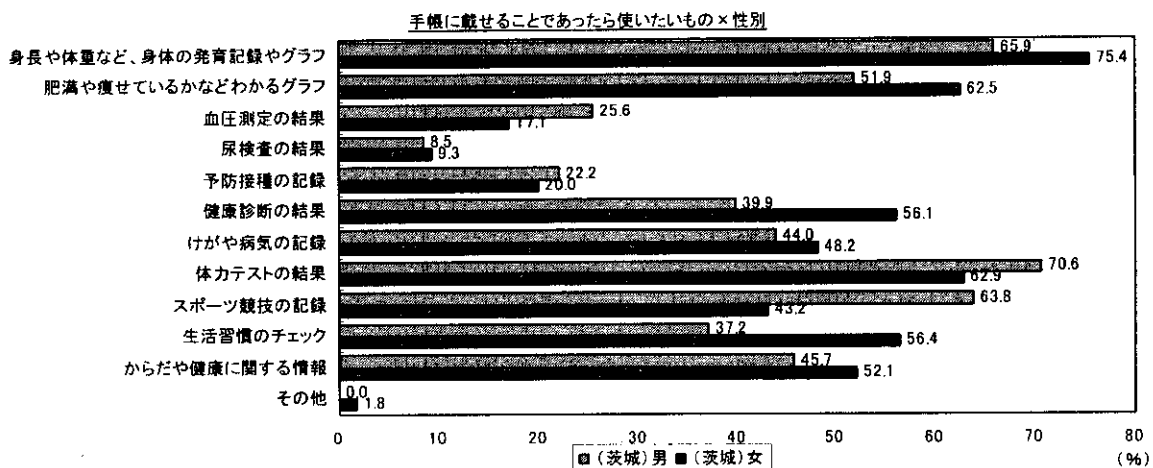
手帳を自分で管理できるか.....

手帳ができた場合に自分で管理できるか質問したところ、女子の方が「自分のものだから当然だ」「できるだけ努力したい」という前向きな回答が多かった。また茨城地域の方が大阪に比べ「当然」「努力したい」など前向きな回答が見られた。



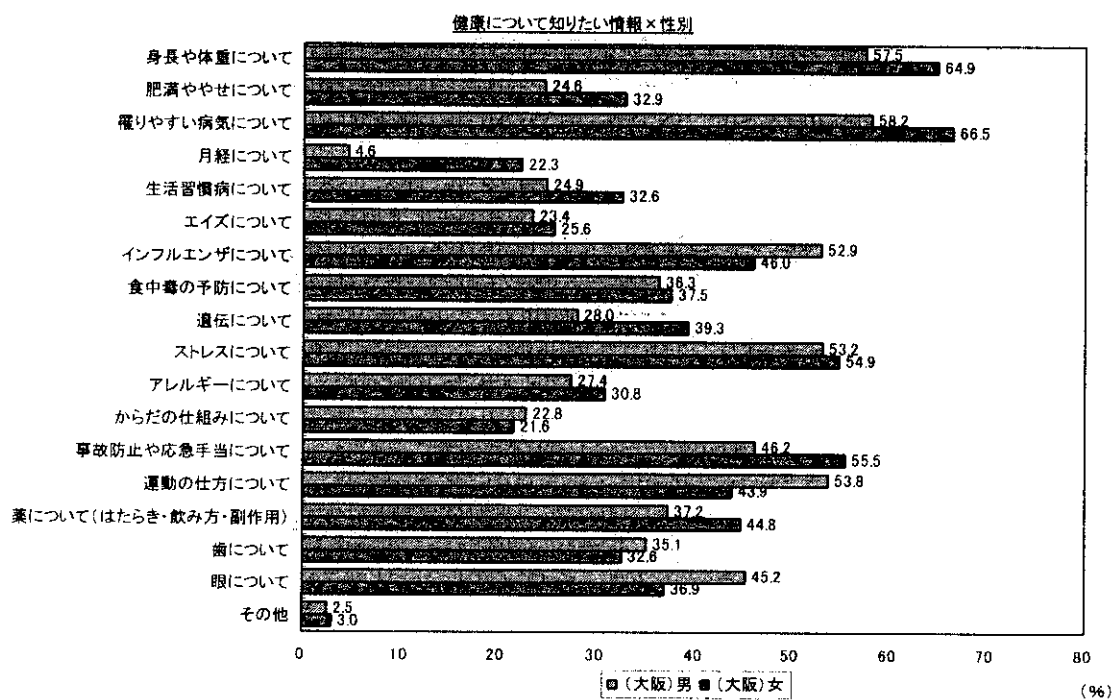
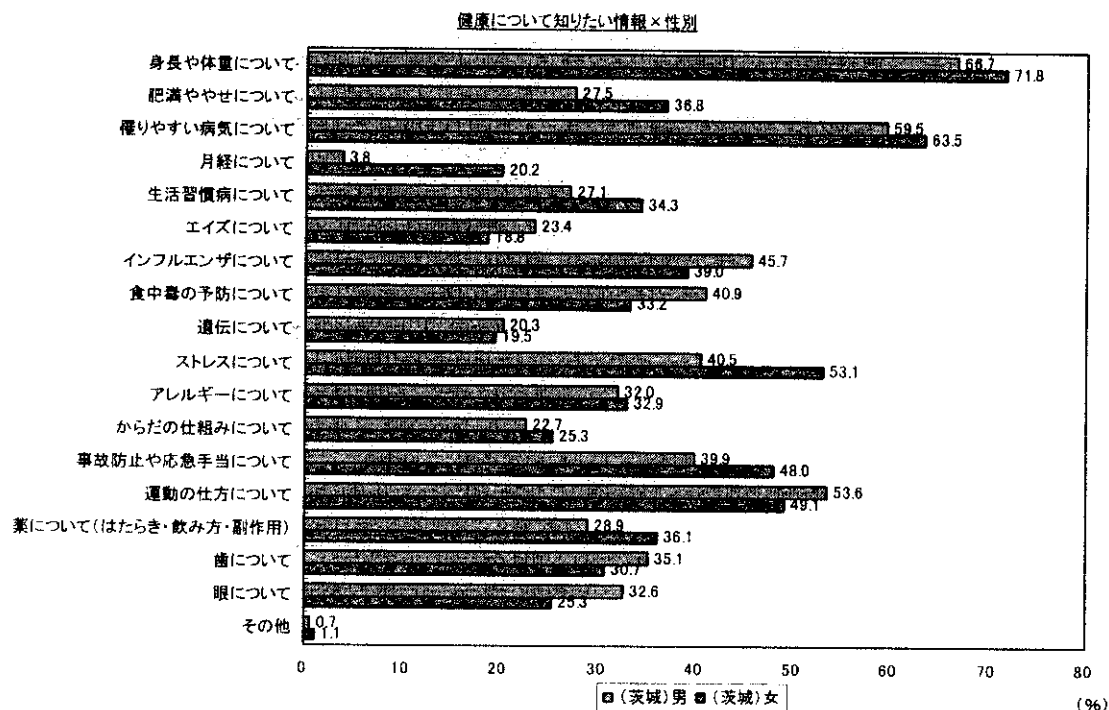
手帳に載せることがあったら使いたいと思うもの.....

手帳に載せる内容では、両地域とも「身体の発育記録やグラフ」「肥満や痩せ」「健康診断の結果」「生活習慣のチェック」などの項目で、女子が男子を大きく上回った。逆に男子は「体力テストの結果」「スポーツ記録の結果」などの項目で女子を上回った。このことから、女子は日常の健康への関連項目に興味を抱き、逆に男子は身体能力などへの意識が強いことが分かる。



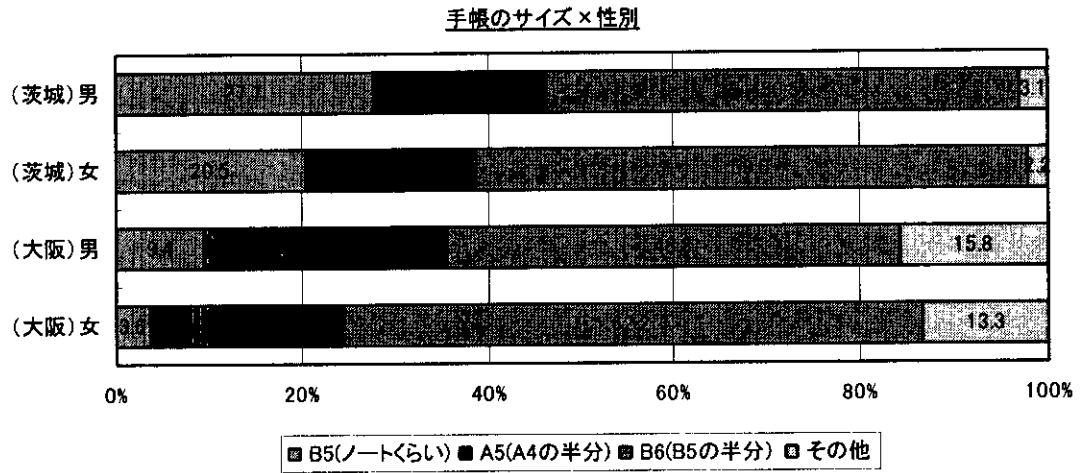
健康について知りたい情報

健康について知りたい情報では若干地域による差が現れ、大阪地域が茨城地域に比べて、「薬について」「遺伝について」「目について」3項目について、茨城地域より知りたいとする割合が10%程度高かった。また茨城地域では「ストレスについて」男女で大きな差がついているのに対し、大阪地域では男女にさほど差が見られなかった。



手帳のサイズ.....

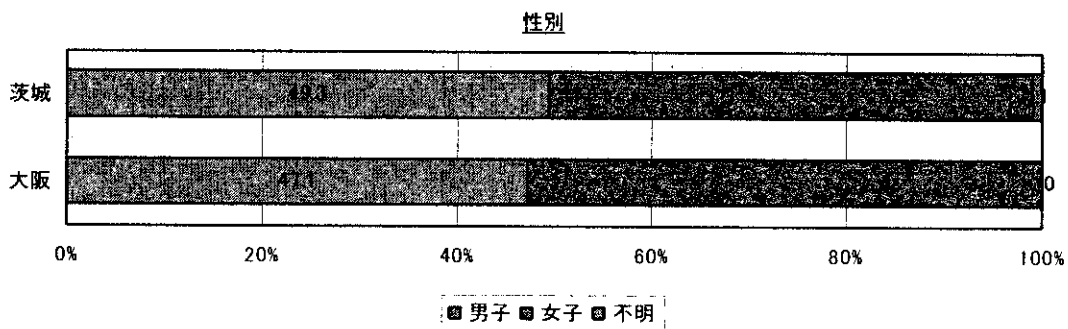
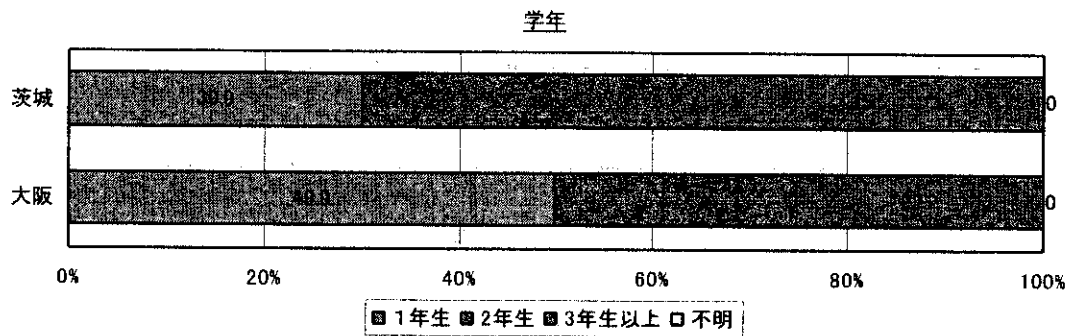
手帳のサイズについて質問したところ、半数近く～過半数がB6という回答を示した。また、男子よりも女子の方がより小さいサイズを求める傾向にある。



中学校対象調査

学年・性別

調査対象の基本属性は以下のとおりである。



母子健康手帳を知っているか

母子健康手帳を知っているか質問したところ、大阪地域の男子は茨城地域や女子に比べて「知っている」割合がかなり低いことが示された。また、男子よりも女子の方が「知っている」割合が高いのは小学生と同じである。

